



碧南ロータリークラブ週報

第2482回例会 平成21年12月9日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



2009-2010年度
国際ロータリーのテーマ
THE FUTURE OF ROTARY
IS IN YOUR HANDS

● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子



鈴木並生会長

会 長 挨拶

今年も残す所あと僅かとなりました。通常の講師をお迎えしての例会も、本日が今年の最後となりました。この最終の例会に、念願の大藤監督をお迎えでき、会員の石川晴久様には心より感謝申し上げます。今回のご講演の実現については石川様の並々ならぬお骨折りがあったことと推察いたします。誠にありがとうございました。そして皆様方のテーブルの上にミカンが乗っていますが、そのミカンは石川さんが有機栽培で育てたミカンです。大藤監督の為に昨日、野間のミカン園に行って収穫してみえたものですので、皆様も是非、お召し上がり下さい。

さて本日は、会員の方の退会のご報告をさせていただきます。神谷研先生が12月末日をもって、健康上の理由により退会されます。後ほど御挨拶を頂くことになっておりますが。神谷先生は昭和43年に入会され、41年間在籍を頂きました。その間、副会長、職業奉仕、国際奉仕、ロータリー財団等の多くの委員長を歴任され、当クラブの発展に大きく貢献されました。改めてこの場をお借りし、感謝申し上げます。これからも健康にご留意され、お元気で過ごして下さいますようお願い申し上げます。

次に、元会員であり康之さんのお父さんの栗津良一様が12月1日にお亡くなりになりました。栗津さんは昭和43年に入会され、平成17年康之さんが入会された年に当ロータリークラブを退会されました。在籍37年間です。その間、昭和50、51年幹事、平成2、3年第32代会長に就任されました。又、昭和58年に山中寛三先生が西三河第二分区の分区代理にご就任の折には、分区幹事として、また平成8年3月開催のI.M.には、実行委員長としてご活躍いただき、大きな成果を収められ、当クラブの発展に多大なご貢献を頂きました。改めて感謝を申し上げ、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

本日は、以上で会長挨拶といたします。ありがとうございました。

退 会 挨拶

神谷研 氏 (在籍41年)



幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告書の通りです。
- ・第6回の理事会報告の中で来年2月6日の西三河分区I.M.については全員登録になりましたので宜しくお願い致します。登録料11,000円/人のうち、5,000円/人をクラブの方で負担し、会員の皆様には6,000円/人を徴収させて頂きます。
- ・小判天様からお歳暮が届いておりますので各自、お持ち帰りください。



新美宗和 副幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数74名(内出席免除者15名の内出席者8名)出席者59名

出席対象者 59/66名 出席率 89.39%

欠席者15名(病欠者1名) 前々回修正出席率 98.48%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 神谷 研君 今日をもって一身上の都合で退会させて頂くことになりました。長い間大変お世話になりました。
- 加藤丈太郎君 12月4日の村上一成さんのエイジシュート達成記念コンペには、新美、角谷の両シンジ君はじめ、多くのロータリーの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。
- 鈴木 並生君 石川春久さん、大藤監督のご紹介ありがとうございました。次総会無事終了しました。ありがとうございました。しかし総会運営に当たり数々の不手際がありました。ロータリーの友情をもって、お許し下さい。
- 石川 春久君 本日の卓話の講師を紹介させて頂きます。
- 木村 徳雄君 何も良い事ありませんが、この会にまだ在籍しているのが良い事ですか。ありがとうございます。
- 新美 真司君 過日、危険物安全協会・臨海工業地帯災害防止協議会合同研修会にてゴルフコンペで優勝しました。
- 山中 寛紀君 この所、雑用多く早退ばかりで失礼致しました。来年はもう少し静かな毎日が送れる様願うばかりです。
- 栗津 康之君 亡き父 栗津良一の通夜、告別式に多くのメンバーの皆様にご参列頂きましてありがとうございました。生前のご厚情に厚くお礼申し上げます。亡き父の通夜・告別式に多くのメンバーの方にお手伝い頂きましてありがとうございました。葬儀委員を務めて頂いた黒田昌司さん、駐車場でご配慮頂いた平岩さん、栗田さん他、本当にありがとうございました。
- 本日すばらしい講師をよんで頂きました石川春久さんに感謝申し上げます。
- 坂本 利彦君 良いことがありました。小さな感謝です。

卓話

卓話「甲子園 優勝報告」

中京大学附属中京高等学校

体育科教諭 硬式野球部監督 大藤敏行氏

皆さん、こんにちは。只今、ご紹介頂きました中京大中京高校野球部監督の大藤と申します。大先輩の石川さんから過分なご



紹介を頂き、大変、恐縮しております。先程は、石川さんより一つは枝に5つ生ったみかんを、もう一つは枝に6つ生ったみかんを頂き、それぞれ、春の選抜に5つ勝ち進み、また夏の甲子園で6つ勝ち進み、連続優勝するようにと激励を頂きました。平成2年8月から、まだ当時、28才でしたが、監督を務めさせて頂いておりますが、非常に多くのOBの皆さんから多くのご期待と叱咤激励を頂きながらも、不本意な成績が続いておりました。私が監督に就任してから、過去38回甲子園にチャレンジし、7回しか行っておらず、成績は1割8分ですが、こうして皆様の前でお話できる機会を設けて頂き、大変、光栄であります。今日はグラウンドや球場で生徒たちと経験してきた事実をお話したいと思います。

ピッチャーの堂林についてですが、春の選抜で報徳学園と試合をした折にあと一球でベスト4という時、2エンド2で最後の決め球は当然、スライダーを投げると思っていたら、インコース真っすぐで勝負に行き、相手にぶつけてしまい、満塁になって結果、逆転のタイムリーを打たれ負けてしまいました。その後、帰ってきて余り早くピッチングが仕上がりが過ぎるといけないということで非常にしぼりまして、100mのダッシュを100本ずつ続けてさせておりました。そのうち、へばって体力がなくなってくると、バッティングをする際に外側からドアスイングをするようになり、サードゴロやショートゴロが続くようになりました。余りに不甲斐なかつたので櫛を入れるために自分が「飛び込め!」と指示したら、そのまま正直にファーストへ飛び込んだ折に左足の膝の裏の靭帯を断絶させてしまいました。全治3ヶ月の診断でその時点では夏の大会への出場が非常に難しく、自分の責任でエースと4番を同時に失ってしまったと悔いていたのですが、その後、彼は奇跡的な回復を遂げました。甲子園の決勝戦では、6回あたりで球威がなくなった堂林を変えました。その後、7点の大差がつき、9回に自分の方に堂林が寄ってきてもう一回投げさせてほしいと志願してきたのですが、正直、自分にその考えはその時はなかったのです。自分はあと3つアウトで優勝だと自分のことばかり考えていました。ところが、ベンチにいる他の3年生の生徒にたまたま目をやると一斉に自分の方を見ていて「投げさせてやってくれないか」と目で訴えているのがすぐに分かりました。堂林が苦しいリハビリを続け、辛い思いを彼らもずっと見てきているのでよく分かりました。「彼でここまで来ることができたので、最後は彼で締めたかった。」という思いもあり、すぐにピッチャー交代の指示を出しましたが、内心、こちらはいいかなあとどきどきでした。すぐに2人をアウトにしたのでこれでいけると思ったのも束の間、サードがボールを見失うわけです。野球は本当に最後の最後まで分かりません。あれよあれよという間に一点差となり、最後のボールは情けないことに球音は聞こえましたが、飛んだ位置が分かりませんでした。気が付いたら、河合のグラブにボール入っていたということです。

良い選手が集まったから、必ずしも勝てるとは限りません。良い奴らが集まった時に良い結果が出ていることが経験上、多いです。控えの3年生の連中はどしゃ降りの雨の中、下級生のレギュラーメンバーのドロドロになったユニフォームを自分たちの役割だと言って一生懸命で洗っています。試合に負けて悔しいお前らよりもベンチに入れぬ先輩たちはもっと悔しいはずだ。そういう人たちがいてお前らがいるということをつかれないとバチが当たるぞとよくレギュラーには言っております。今回、優勝させて頂いてからは、よくやったと日向の所をよく言われますが、裏方というか表に出てこないが素晴らしい人間がたくさんいる時が不思議と結果が伴ってきていることが多いです。

最後に大学一年生の卒業生がくれた手紙をご紹介します。

「自分は寮生活にも慣れ、そして何よりもキャッチャーというポジションにも慣れて最近は今まで以上に野球がおもしろいと感じれるようになりました。しかし、今のままでは来年の春からリーグ戦でマスクをかぶることはできません。そのために自分のノートに今週の目標、今月の目標、春までの目標というようにしっかりと目標を立てて、一日一日、目的をもって練習するようにし

ています。そして、誰でもできる挨拶、返事、掃除、気配りを誰にもできないくらいやろうと意識してやっています。高校時代に先生から毎日のように人間が野球をするんだと言われてきましたが、その言われていた意味が少しずつですが、分かるようになってきた気がします。ですから、選手の皆さんはシーズンも終り、春季大会まで目標を見失いがちですが、この冬の練習でチームの力を上げると言うよりも個人個人の能力を最高に上げて、春から夏にかけてチーム一丸となって戦って下さい。楽しくやれる野球なんて絶対にありません。辛く厳しい練習を前にしてその成果が試合に出てチームが勝ったときに野球が楽しいと感じれるものだと思います。自分にもそして他人にも厳しい目を向けて練習をして行って下さい。人生は高校野球で終りではありません。たとえレギュラーになれなくてもチームに欠かせない存在になる、最後の最後まで諦めずに努力することによって、高校卒業して大学に入ってから、社会に出てから役に立つものと思います。」

というような手紙をくれた彼は2年生の夏にベンチに入っていませんでした。秋にベンチに入る訳ですが、母親に「このままベンチに入れないから、ぼくたちの代はマネージャーがいないので俺、マネージャーやろうかな。」と言ったそうです。彼は、高校ではセカンド、大学ではキャッチャーに変わりましたが、今、プロ野球の楽天で野球をやっている嶋基宏です。彼は教員になって野球を教えると言って国学院に行きましたが、プロになって3000万を超える報酬をもらっています。レギュラーになる前にこうして彼が手紙をくれてこうやって頑張るんだと言ってくれたんです。同じ野球が好きで努力をしている仲間の中の一番大切なところが、今日、ご紹介させて頂いた子どもたちの思いであり、心であり、行動であるのではないかと考えています。

当校のグラウンドには元中日監督である杉浦清さんの「留魂」の碑というものがあります。「みんなが苦難に耐えた みんなが死線を越えた みんなが栄光を握った みんなが伝統を守った そして今も みんなが見守っている 応援している 願っている」
実は、その碑に一番、大きく描かれているのは、グラウンドを整備するトンボを持っている3人の子どもたちです。みんなというのはそういう意味なんだということを新入生にはよく教えています。

先輩方やこうしてご縁があってお話ができる皆様方に少しでも喜んで頂けるように春の選抜で結果を残すことも大事なんです、良い野球、納得のできる野球を私はやっていきたいと思っています。本日は本当に良い機会を与えて頂き、ありがとうございました。

次回例会案内

平成22年1月20日（水）卓話「私の履歴書」

会員 菅原 優君、栗田政志君